



森林とのふれあい!



常陸大宮市立大宮北小学校 森林教室を実施!



一二月二日(月)常陸大宮市立大宮北小学校の五年生を対象に当署職員による森林教室を実施しました。

今回の授業は、総合的な学習の一環として、環境学習を通じ森林や林業について学ぶことを目的としています。

授業では、クイズや実験を通じて、楽しみながらも子供たち自らが森林のはたらきなどに気付き学べるよう工夫をしました。



水がどのように流れ出るかな?

授業ではパワーポイントを使用し、まず日本や茨城県の森林の割合をクイズ形式で学びました。

また、森林の分布の特徴など国土・県土の特徴についても説明をしたところ、子供たちは熱心にメモを取っていました。

その後、森林のはたらきについて説明を行い、学校の中には、机や鉛筆、本やノートなど森林から生産されたものに囲まれていることなどに気づいてもらうことができたと思います。

最後に、森林に降った雨水がどのように流れ出るか実験装置を使って実験しました。



森林の土と校庭の土を模した実験装置。

子供たちからは、「おお!すごい」「森の土からは、きれいな水が出てる」などの声上がり、森林の保水能力や浄水能力について、理解を深めることができたと思います。

学校での授業や各種の体験活動を通じて、環境問題や森林について学習できる機会が多くなってきました。県や市町村とも連携しながら、多くの方に森林へ興味を持っていただくきっかけ作りのお手伝いをしていきたいと思っています。

(@ぐう)

森林ひとくちメモ①(緑のダム)

森林は、落ち葉などが厚く積もることでミミズなどの生物が多く住む土が作られます。このような土はスポンジのような役割となり雨水をすみやかに中に浸透させることができます。その能力は、土がおき出しになっている土地の3倍との研究報告もあり、雨水が地中にしみこみ、ゆっくりと川に流れ出ていくことにより洪水や水不足が緩和されます。このようなことから森林は「緑のダム」と呼ばれています。

